

市民公開講座「放射線と健康影響について」報告

Citizen open lecture report “About radiation and health impact”

坂口 桃子 村川 由加理 作田 裕美
Momoko SAKAGUCHI Yukari MURAKAWA Hiromi SAKUDA

第3回日本放射線看護学会学術集会事務局
大阪市立大学大学院看護学研究科

Osaka City University

第3回日本放射線看護学会学術集会では、市民の関心の高い放射線と放射線が及ぼす健康への影響をテーマにした市民参加型の講座を企画いたしました。幸いにも講演は独立行政法人日本原子力研究開発機構核燃料サイクル工学研究所の高下浩文先生が快くお引き受けくださいました。高下先生は、千葉大学理学部物理学科をご卒業後、東京都立大学大学院理学研究科物理学専攻博士課程にて原子核の研究で理学博士の学位を取得され、その後、動力炉・核燃料開発事業団、米国ブルックヘブン国立研究所において、長寿命放射性核種の消滅処理研究に従事されておりましたが、動燃の事故をきっかけに、2001年からリスクコミュニケーションの研究と実践に取り組み、茨城県東海村の住民を対象にリスクコミュニケーション活動を展開されていらっしゃいました。この度の福島原発事故後は、放射線と健康影響に関する電話相談、茨城県と福島県の住民を対象とした放射線勉強会、福島県民を対象とした内部被ばく検査等にご尽力くださっております。

高下先生のお話は、学識と実践の蓄積に裏打ちされた非常にわかりやすいお話でした。先生はまず、放射線の基礎知識を解説してくださったのち、放射線の人体への影響について福島原発事故を例にとりながらわかりやすく解説してくださいました。以下に、アンケート結果から参加者の概要と感想を簡単にご紹介いたします。

参加者は60名で、そのうちアンケートにご回答いただいた方は44名でした。44名中、医療従事者が28名(64%)と最も多く、一般市民は8名(18%)、学生が5名(11%)、その他3名(7%)でした。一般市民の参加が少なかったことは残念でしたが、会員・非会員を問わず学術集会参加者の看護職の関心の高さがうかがえました。

自由記述の感想では、「わかりやすい講義であった」「身近な例を挙げてくれたので納得できた」「正しい知識が得られた」等、わかりやすく正確な知識を学ぶことができたとの記述が最も多く、続いて「体験が楽しかった」「楽しかった」の記述が続きました。少数意見として、「報道の仕方ですら庶民の受け止め方が違ってくることを実感した」「3・11以後、放射線と健康問題について自分で調べていたがよくわからないままだった。今回の講座で疑問が解消された思いだ」「家族にも受講させたかった」等、有益であったと記してくださっております。参加者からのこうした反応は、受講者参加による体験型講座の効果と高下先生の「正しい知識を持ってほしい、マスコミ報道を鵜呑みにして、むやみに恐れないでほしい」という思いが、相乗的に功を奏して受講生を引き込む公開講座を作り上げ提供いただけたものと、事務局として感謝申し上げる次第です。

最後にご紹介申し上げたい市民からの自由記述がございます。「放射線検査をよく受けるが、人体への影響について説明を受けたことがない。きちんと知りたい」との一文です。一般市民が遭遇する放射線事故の機会よりも、はるかに多い医療被ばくの機会を考えたとき、日常の放射線看護の現場で解決していかなければならない課題を突きつけられた重い言葉でありました。